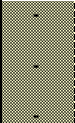


スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.1	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				3.7	0.15	3.3	1.00	3.5	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.46	3.0	0.50		
1.2 遮音				4.6	0.46	3.6	0.50		
1 開口部遮音性能		T-2を採用している。		5.0	0.85	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.15	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.08		-		
2 温熱環境				2.0	0.35	2.9	1.00	2.4	
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.3	0.50		
1 室温				3.0	0.53	3.0	0.63		
2 外皮性能		住戸部:日本住宅性能表示5-1断熱等性能等級4相当である。		3.0	0.33	4.0	0.38		
3 ソーン別制御性				3.0	0.14		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	2.0	0.20		
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.1	0.25	3.6	1.00	3.3	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光率		住居部:昼光率 \geq 2.0%		3.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口					-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		住居部:庇とカーテンの2種類の組合せでグレアを制御している。 共用部:全般照明方式で照度が500lx以上1000lx未満である。		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				4.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.2	0.25	3.2	1.00	3.2	
4.1 発生源対策				3.0	0.56	3.0	0.63		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気				3.6	0.36	3.6	0.38		
1 換気量		共用部:中央管理方式で30m ³ /h以上である。 共用部:自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上、 住戸部:居室面積の1/6以上開閉可能な窓を確保している。		4.0	0.44	3.0	0.33		
2 自然換気性能				5.0	0.13	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.44	3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.08		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2	
1 機能性				3.5	0.40	3.6	1.00	3.5	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60		
1 広さ・収納性		各住戸にGbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境が整備されている。		3.0	0.13		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.13	4.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	0.74		-		
1.2 心理性・快適性				3.7	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	0.13	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.13		-		
3 内装計画		快適な住環境を促進する為、エントランスホールの壁・天井材は、天然木無垢材を採用し、照明と内装の一体計画としてエントランスホール天井に間接照明を設置している。		4.0	0.74	3.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		トイレの壁・床は、防汚性の高い仕上材を使用している。 床面は水分を使用できる素材とし、水で洗浄可能な設計・構造を採用している。		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30		-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水PEP(B)、排水VP(B)、冷媒管CUP(C)、Eは不使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.0	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		

	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20		-	
	3	電気設備	3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	3.0	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			4.2	0.12	3.0	0.50	
1	階高のゆとり	共用部:階高は3.9m以上	5.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
ATMコーナー、HDZは積載荷重が4500N/m ² 以上			5.0	0.12	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.77		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40		-	5.0
敷地境界および前面道路からセットバックさせることで、圧迫感を軽減している。 植栽によって沿道に緑の連続性を確保し、良好な景観を周辺に寄与している。							
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.3	0.20		-	4.3
BPI _m =0.75 住居部:日本住宅性能表示5-1断熱等性能等級4相当である。							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.2	0.50		-	4.2
BEI=0.65、LED照明設備及び潜熱回収型給湯器を導入している。							
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.39		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			3.0	0.61		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60		-	3.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20		-	
ビニル系床材、断熱材							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20		-	
躯体+軽鉄+仕上材のディールを採用し、OA707-も採用している。							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30		-	
PRTR法に該当しない建材種別が1つ以上3以下有る。							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33		-	3.5
LCCO ₂ 排出率86%							
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び管理用車両の駐車施設を確保している。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		1.0	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	

	3.3 光害の抑制		光害対策として、上方や周辺への漏れ光の少ない照明器具を採用している。広告物照明は行っていない。	4.4	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70		-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	